Intertek Certification Japan Limited

Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.46（2014年10月発行）

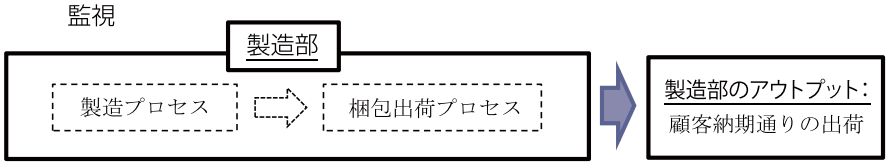
審査の現場から
ープロセスと業務の監視ー

QMS 認証部　TS 技術部長　石嶺 行英

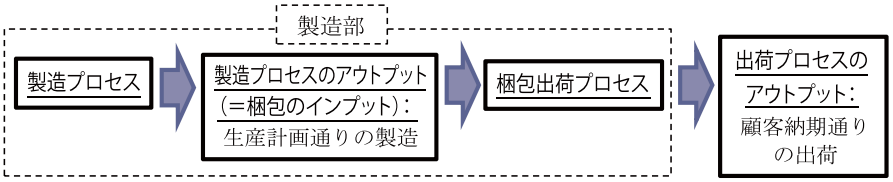
2015年規格改定では、プロセスを単位としたシステムの構築・運用（以下プロセスアプローチ）がより重視されそうです。2000年以降、ISO9001にはプロセスアプローチが盛り込まれていますが、今一度「プロセスアプローチ」の利点について考えてみたいと思います。

「プロセス」は、業務を管理・監視しやすい単位でまとめたもので、インプット（入力：材料、情報など）から、アウトプット（出力：次のプロセスが求めるもの[＝部品、製品、分析結果]）を生み出す活動です。通常は、業務のまとまりは部署を基準に考えますが、それとは何が違うのでしょうか？　例えば、業務を管理するためには、「あるべき姿（結果）に対し、うまくいっているかどうか（有効性）」を監視します。うまくいっていないのなら、仕事のやり方を見直します。ここでは部署単位とプロセス単位の違いを「監視」を通してみます（実際の審査事例です）。以下は、部署単位の監視（図A）とプロセス単位の監視（図B）のイメージです。

【図A】
部署単位の監視：業務の良し悪しを製造部のアウトプット(顧客納期通りの出荷)で監視



【図B】
プロセス単位の監視：業務の良し悪しを製造プロセス(生産計画通りの製造)並びに梱包出荷プロセスのアウトプット(顧客納期通りの出荷)で監視



受審企業側は、図Aの考えで業務を監視し、過去のデータはほぼ100%の遵守率でした。一方、図Bのプロセス単位で審査員が再検証すると、生産計画に対し慢性的な遅れがあり、納期を守るため、出荷では特別出荷便を幾度となく利用していました。一見良好に見えても、部署単位の見方をプロセス単位に置き換えると業務の目的（あるべき姿）が特定され、改善の必要性もよく見えてきました。以上、今後のヒントになれば幸いです。

CONTENTS

01 審査の現場から
ープロセスと業務の監視ー

02 03 特集
ISO9001、ISO14001改正準備に向けて
改正前に組織のマネジメントシステムを見直してみる（2）

04 News & Topics
ー引地精工様、AS9100 認証取得
ーISO14001国際規格案（DIS）発行
ー学生向けISO9001内部監査員セミナー開催

05 審査の現場から
ーお客様紹介
（株式会社サンキ工業）
ー連載よみもの
「審査員の心理」（環境編）

06 連載よみもの
ー審査員リレーエッセイ
「へたの油絵入門・風景との対話」
（審査員　石川 良一）
ー環境とISO14001
「第5次 IPCC報告」

07 お客様からのお便り
ー「大衆の中により深く」
（株式会社とんでん）
ー「環境にやさしい物流器材」
（株式会社新弘）

08 研修コースのご案内
ーちょっといっぷく
ーコースのご紹介／受講生からのお便り

◆Intertek News（旧 MIC情報通信）のバックナンバーは弊社ホームページでご覧頂けます。http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm
発行 インターテック・サーティフィケーション株式会社 大阪事務所　◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

ーISO9001、ISO14001 改正準備に向けてー

改正前に組織のマネジメントシステムを見直してみる（2）

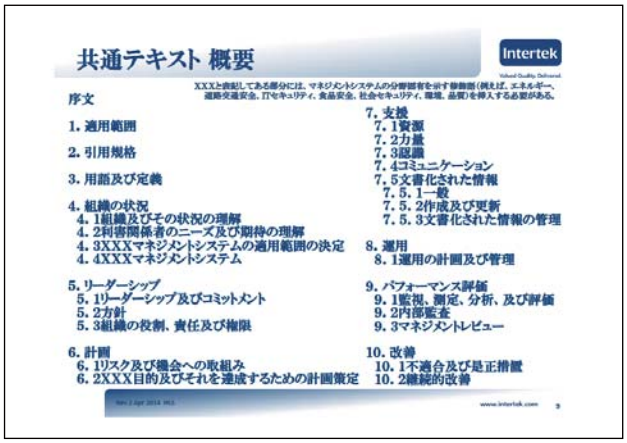
東京事務所 認証部　　本田 彰

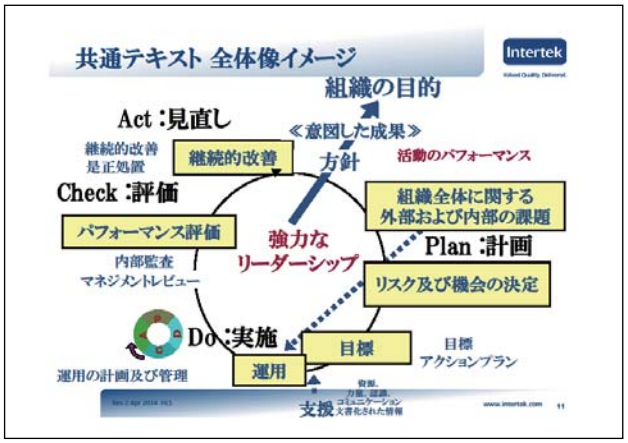
2015年の発行に向けて、現時点（2014年8月初旬）では両規格とも国際規格原案（＝Draft International Standard）の段階まで至っており、改正では「パフォーマンスを出せるマネジメントシステム」を要求しています。前回紹介のマネジメントシステム規格共通化、及び共通テキスト概要に続き、今回はその要求に対応するための重要ポイントをおさえることにより改正準備に役立てて頂ければと思います。

「意図した成果」と「パフォーマンス」

前号でのまとめでは、『組織の目的』とは「経営者の夢」等にあたるためマネジメントシステムの運用にはトップマネジメントの強い関与は必然であると説明しました。

その「経営者の夢」を達成するために、ISO9001やISO14001で「どのような成果を達成したいのか？」を明確にすることが重要になります。組織がそのISOに取組む「理由＝意図」にあたりますが、共通テキストではマネジメントシステムの「意図した成果」という用語が頻繁に出ており、これをトップマネジメントが明確に示し、運用結果「達成できたのか」を評価します。その成果を測るものが「パフォーマンス」であり、改正では運用前にあらかじめパフォーマンス項目＝指標の設定を要求されています。





【出典元】
附属書SL（ISO/IEC 専門業務用指針 統合版ISO補足指針−ISO専用手順 内）
日本規格協会HP http://www.jsa.or.jp/itn/shiryo-1.asp 参照

「組織状況の整理」「リスク及び機会への取組み」

共通テキストの要求事項では、組織が置かれている状況を把握することから始まっています。箇条4.1「組織及びその状況の理解」では、組織が向かっていく目的（＝Purpose）に対し、現在の外部と内部における課題を整理し、さらに箇条4.2「利害関係者のニーズ及び期待の理解」では、利害関係者（例：顧客、下請・外注先、親会社、行政等）が誰なのか、そのニーズを把握した上でマネジメントシステムの適用範囲の決定を要求されています。

課題を特定すること、また、利害関係者のニーズを把握することは事業を進める上で非常に重要なポイントになります。顧客は利害関係者の一部にあたりますが、顧客とコミュニケーションをとりニーズを把握しているか否かで事業に良い影響、または悪い影響につながってしまうこともあります。

これらを考慮しながらマネジメントシステムの計画を立てますが、ここで予防処置活動を取り入れます。改正では

「予防処置」特定の箇条（例：現ISO9001:2008の8.5.3予防処置、ISO14001:2004の4.5.3不適合並びに是正処置及び「予防処置」部分にあたる）がなくなり、そもそもマネジメントシステムの重要な目的の一つが、予防的なツールとしての役割を持つためであるという考えからですが、主に箇条6.1部分で予防処置概念を網羅していることになります。予防処置＝未然防止活動は、マネジメントシステムを計画する段階でリスク（定義：不確かさの影響。影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向に乖離すること等）及び機会を考慮し、それらを低減するための取組みと有効性評価の計画を要求されています。

「リスク及び機会」という用語は組合せで使われ、事業においてのリスクを排除し逆に事業の良い機会を見つけ、組織のマネジメントシステムの持続的な成果につなげるための要求です。

優先的な目的、アクションプラン、運用

前述の組織の目的（＝Purpose）に向けて、課題、利害関係者のニーズ、そしてリスク及び機会等の流れを考慮して、箇条6.2ではその組織にとっての優先的な目的（＝Objective）（例：現ISO9001:2008の5.4.1品質目標、ISO14001:2004の4.3.3目的、目標及び実施計画 部分にあたる）を設定します。さらにその目的をどのように達成するかを「実施事項」「必要な資源」「責任者」「達成期限」「結果の評価方法」を要求としたアクションプランを決定し、箇条8「運用」ではそのプロセスの有効性を示す基準、管理から、目的、アクションプランの見直しを継続的に実施することを要求されています。

なお、箇条8部分は主に現ISO9001:2008の「7.製品実現」部分にあたり、箇条8.2以降に個別の条項、テキストが入ることになります。

パフォーマンス視点の評価、改善

箇条9「パフォーマンス評価」内9.1「監視、測定、分析及び評価」では「組織は、パフォーマンス及びマネジメントシステムの有効性を評価しなければならない」とあります。ISO/DIS 14001 6.2.2「環境目的を達成するための取組みの計画策定」では「組織は、環境目的をどのように達成するかについて計画とするとき、次の事項を決定しなければならない。・・・-測定可能な環境目的の達成に向けた進捗を監視するための指標を含む、結果の評価方法」とあり、また、ISO/DIS 9001 4.4「品質マネジメントシステム及びそのプロセス」では、「プロセスの運用及び管理のいずれもが効果的であることを確実にするために必要なパフォーマンス指標を含む判断基準及び方法」を明確にすることが要求されており、両規格とも計画段階でパフォーマンス項目（＝指標）をあらかじめ設定すること、そしてその評価を要求されていることになります。

箇条9.2「内部監査」、9.3「マネジメントレビュー」では現要求事項に対しパフォーマンス視点が求められ、箇条10「改善」につなげていきます。

まとめ「見直しに重要なトップマネジメントの関与」

上記においてポイントを説明しましたが、現在のマネジメントシステムを「パフォーマンスが出せる仕組みになっているか」、「組織の目的、意図した成果、パフォーマンス、課題、利害関係者のニーズ、リスク及び機会、優先的な目的、アクションプラン…」の流れを使い、見直してみることが改正準備の第一歩と考えます。

ほとんどの項目が、トップマネジメントの関与なくして進めることは難しいと思いますので、是非ご一緒に、またなるべく多くの方々にも参画頂きながら、見直してみることをお勧めします。もしも現在のマネジメントシステムにない部分が見つかれば、『組織の目的』の達成に早く近づくためにも、早速取り入れてみることもよいでしょう。

【ISO9001／ISO14001改正最新情報】

改正スケジュール、構造等の最新情報については弊社ホームページにてご確認ください。

▷「ISO9001/ISO14001 改正最新情報」 http://www.moodygroup.co.jp/mic_kaitei.htm

また、お問い合わせは、弊社東京事務所 QMS（ISO9001）／EMS（ISO14001） 各認証部（Tel:03-3669-7408）までお願いします。

引地精工様（宮城）、AS9100認証取得

宮城県岩沼市の引地精工株式会社様が、QMS、EMSに次いで3規格目となる、AS9100認証を取得されました。同社は、産業用省力化機械、FA装置などの各種生産設備設計製作・精密機械加工全般のトータルシステムをデザイン・提供されています。また、会長の引地政明氏は永年にわたり「みやぎ工業会」の理事としても活躍され、「東日本大震後の復興」や「富県宮城」実現にと貢献されています。

今後、航空・宇宙分野への事業拡大も視野に入れ、更なる飛躍を目指される引地精工様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

【AS9100認証書授与式にて】
左から）引地精工㈱ 代表取締役会長 引地政明氏、同代表取締役社長 引地政善氏、MIC代表取締役 坂井喜好、引地精工㈱ QMS/EMS MS事務局 西野諭氏

ISO14001国際規格案（DIS）6月27日発行

全てのISOマネジメントシステム規格の構造や用語に共通性を持たせる指針（附属書SL）が2012年に制定されました。今後制定・改正される規格はこの指針に従うことになりました。ISO14001については、国際規格案（DIS）が6月27日に発行され、2015年7～8月の改正を目指しています。

ポイントは、①環境マネジメントシステムとビジネスとの一体化。ー実際の経営・事業活動の課題を環境マネジメントシステムに取り入れ、効果が出せるようにする、②経営者の責任の強化、③持続可能な社会に向けた環境保護のコミットメント、④環境パフォーマンスの成果が出せるシステムにする、です。

今回の改正に伴い、弊社では規格改正関連のセミナーを東京・大阪・名古屋・福岡をはじめ、各地で開催しています。

学生向けISO9001内部監査員セミナー開催

昨年より【学生向けISO9001内部監査員セミナー】を開催しております。7月25日には日立市に立地する国立茨城大学 工学部 都市システム工学科（担当：沼尾達弥教授）よりご依頼を頂き、講義を行いました。

講義科目『土木行政』では、社会基盤整備は市民生活に密接に関係し、その経済性、自然・社会環境への影響評価・効率的実施が重要になり、技術者が実務上で理解しなければならない仕組み、法的規定、財政・社会・環境面の制約条件、倫理規定などを理解することが必須となり、知識の統合化を目指しております。

この授業の一環として、ISO9001:2008の基本的概念の講習および内部監査の演習を行いました。学生にとって初めてのISOに触れることとなりましたが、身近な例をもとに演習を行うことで理解を深めていただけました。社会へ出てから不可欠な知識として、今後もより多くの大学生に広めていきたいと考えております。

Q&A

現在、改正作業が進められているISO9001とISO14001について、規格改正セミナーで頂いたご質問をはじめ、皆様から問合せの多かった内容についてご紹介致します。

Q1. 今回の規格改正の目的は何ですか？

A1. 各マネジメントシステム規格（MSS）で異なっていた用語・定義の共通化により、複数規格導入の負担を軽減して統合を進め易くすること、またMSS要求項目の明確化により、これまで以上に明確に経営に直結する、結果を出せるシステムにすることが今回の改正の目的の大きなポイントです。

Q2. 改正版はいつ発行される予定ですか？

A2. 現在ISO9001、ISO14001とも国際規格案（DIS）が発行された段階です。今後は、ISO9001は2015年7～8月頃に発行予定とされている最終国際規格案（FDIS）を経て、9～10月頃に国際規格（IS）が発行される見込みで、ISO14001は2015年3～4月頃にFDIS、7～8月頃にIS発行の見込みです。

Q3. 改正版の発行後は、すべて改正版での受審になりますか？

A3. 発行後に設けられる移行期間内に、改正版で受審頂ければ大丈夫です。

Q4. 移行期間はどの位ありますか？

A4. ISO9001、ISO14001とも改正版発行後3年間の見込みです。

Q5. 次回の来年の定期審査までに移行準備が整わなかった場合、従来版と改正版とで半分ずつ審査を受けることはできますか？

A5. 審査は規格に基づいて行われるものですので、審査基準となる規格は一つです。改正版発行後の移行期間内は、受審前に従来版か改正版のどちらで受審するかを選択して頂く形になります。改正版発行後に手続き等のご案内をする予定ですので、その際にご確認ください。

Q6. 移行審査は通常の審査とは別に受けるのでしょうか？

A6. 定期審査（維持審査・再認証審査）と併せて、改正版への移行審査を受審できます。その際に追加工数が必要になるのかは、改正版発行後に確定する予定となっております。改正版発行後に、認証部より移行手続きや移行期限も含めご案内致します。

Q7. 今から準備して間に合うか不安なのですが…。

A7. 準備が早いに越したことはありませんが、まだ改正版の発行前であり、焦らなくても今からの準備で十分対応可能ですし、発行後には移行期間も設けられますので、発行後の準備でも大丈夫でしょう。規格改正に関するセミナーも随時開催しておりますので、情報収集、疑問・不安の解消にもお役立て頂ければと思っております。
尚、改正スケジュールを含め、最新情報については弊社ホームページをご参照ください。（「ISO9001/ISO14001改正最新情報」：http://www.moodygroup.co.jp/mic_kaitei.htm）

中央増補幹線 発進立坑 作業現場

お客様紹介

株式会社サンキ工業 様

（ISO9001：2008 認証登録）

審査員 **美濃 英雄** *Hideo Mino*

株式会社サンキ工業様は、昭和38年大阪にて創業、「何でも出来る」を自負されており、「顧客要求を満足させ、感動して頂ける製品の提供」を品質方針の柱として、2013年にISO9001を認証取得されました。

創業者は、旋盤工、板金工、配管工など職人としても現場に立たれ、創業年には発電所のボイラー設置工事を受注されています。ボイラー1基の工事は、当時10億円前後の受注金額で、工期は約1年半、職人はピーク時毎日250人が施工されました。現在、全国で20基以上の実績があります。その後、地盤凍結工事に舵を切られましたが、これは地下鉄、海底トンネル、高速道路、共同溝などの施設には欠かせない重要な業務です。

初回審査の視察現場は、北浜逢坂貯留管築造工事（道頓堀工区）凍結工事用冷凍機撤去作業現場で、大阪ミナミの道頓堀川上でした。同社の担当する地盤凍結工事は、直径数mから160mの開口部のある立て坑（縦穴）で、深さが40メートルから60メートルの、ほとんど底の場所での作業です。東京湾アクアライン、東京・大阪の地下鉄他、近年も、大阪・神戸・広島等の現場で作業を展開されています。

同社では他に、LPG船・LNG船の搭載配管（100％X線検査）、半導体向け配管工事、飲料・食品・薬品向けサニタリー配管工事も手がけられています。今では日本全国から、海外も視野に入れて「何でも出来る会社」を目指されています。

http://sanki-ind.jp/

連載よみもの

審査員の心理

第13回（環境編）
「サイトツアー」

環境主任審査員 **大村 敏夫** *Toshio Omura*

環境審査のサイトツアーでは、多くの場合、建物内部以外に外回りも視察します。製造工場を例にしますと、原材料から製品に至る過程で、どのようなインプット（原材料、副資材、エネルギー、圧縮空気やガス　等）が投入され、どのようなアウトプット（製品、廃棄物、排水、排ガス、騒音・振動、廃熱　等）が発生するかを確認します。これらのインプット／アウトプットに関連した設備として、タンク類、ボイラー、コンプレッサ、排風機、集塵機、排水出口、排水処理、掃除用具、緊急時対応用具、廃棄物置場　等）も現場の状況を確認しますが、これらは室外に設置されていることもあり、外回りの視察も欠かせません。外回りの視察では、これらの生産に関わる設備以外に、事務所の生活排水などを処理する浄化槽、駐車場、洗車場、給油設備、焼却炉、排水路など、該当するものが有れば確認します。また、周辺の状況（道路、水路、住宅、他工場、等）も確認します。

その他、原材料などの納入、製品、廃棄物などの搬出など、視察中に行われることもあり、観察することもあります。納入/搬出に関連して、製造工程のアウトソースの有無や内容も確認することがあります。

サイトツアーでは、ガイドの方に案内していただきますが、それぞれの現場にて、担当の方から直接お話を伺うことも有ります。業務の内容を確認し、何を重点的に管理しているか、関連する法的要求事項やシステムについてどのように理解しているかをお聞きすることも有ります。

サイトツアーを行うことにより、その組織にとっての重要な環境側面やその管理状況を把握し、組織の環境管理システムの中で、どのように位置づけられているかを確認する予備知識とします。

審査員リレーエッセイ㊹

From
東京都立川市
石川 良一
（いしかわ りょういち）

Profile
専門分野：ISO9001－電気・電子、研究開発
経　　歴：東亜ディーケーケー株式会社、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「へたの油絵入門・風景との対話」

油絵の筆を初めて手にしたのは、学窓を出た翌年、会社環境にも慣れて少しは気持ちに余裕が持てるようになった秋のことでした。神保町古書街で買い込んだ、石川滋彦著「油絵入門」のマティエールを片手に、新宿・世界堂でひと通りの道具を取り揃えたのだった。翌日、スケッチブック片手に奥多摩・鳩の巣駅から川乗山を目指した。出発が遅かったので、ゆっくりと周りの景色や遠望にも気にとめる余裕もなく、薄曇りの空を上に仰ぎながら頂上をめざした。しかし、行き合う人もまばらで、上に行くほど挨拶も交わせるチャンスが無くなって来る。やっとのことで、もうその先が頂上だという地点に来て、なだらかな石垣土手にススキがなびいている。やっと気にいった絵の構図に巡り合ったのだ。わたしはクレパスを取り出し、一挙にスケッチブックにこの光景を塗り尽くした。翌朝、私の部屋で昨日のうちに脳裏に焼き付けた印象をF10号「川乗山・中秋」として、一挙に描き上げた。この絵は油絵第1号として、筆タッチの鮮やかさ、どっしりと秋山の自然と空気が融合した作品として愛着が深い。この時味わった“風景との対話”が、私の長い旅路を支えるエネルギーとして、今日まで日曜画家を継続してくることになりました。

連載「環境とISO14001」㊹

第44回「第5次IPCC報告」

環境主任審査員　郷古 宣昭　Nobuaki Goko

IPCC（国連気候変動政府間パネル）は世界気象機関と国連環境計画によって1988年に設立された国連組織で、その報告書は気候変動に関わる最先端の知見をその信頼度の評価も付けてまとめたものです。第5次では800人以上の科学者が約4年間の歳月をかけて作成しています。

報告書は2013年9月の第1作業部会の「科学的根拠」以来、第2作業部会の「影響・適応・脆弱性」、第3部会の「緩和策」が相次いで発表され、2014年10月には「統合報告」が発表される予定です。これまでの3つの報告について、そのポイントを簡単にまとめてみました。

(1)温暖化は主に化石燃料の使用が原因である可能性が「極めて高く」、特に石炭の責任が大きい。

可能性が3次報告の「高い（確率60％以上）」、4次報告の「非常に高い（確率90％以上）」から今回は「極めて高い（95％以上）」と信頼性を上げていることが注目されます。

(2)このまま何も対策を取らないと100年後には4℃前後の気温上昇が予想される。

産業革命以降、地球が温暖化していることは間違いなく、過去100年間で全球平均気温は0.85℃上昇しており、温室効果ガス（GHG）の濃度と気温とは明確な相関があり、GHGがCO_2換算で既に430ppmに達していること、このまま何も対策を取らないと2100年には750～1300ppmに達することが示されました。

(3)気温上昇を2℃未満に抑えても影響は甚大であり、「適応」が必要。4℃上昇すると適応不可能な影響も予想される。

ここで「適応」とは、例えば洪水対策とか農作物の品種改良など温暖化の影響に備えることを言います。温暖化の影響は既に顕在化していて、1℃の上昇でも熱波や大雨・洪水のリスクが高くなり、2℃上昇では北極の氷やサンゴ礁など脆弱なシステムは甚大な危険に曝されます。3℃以上ではグリーンランドの氷床が解け始め、7mの海面水位上昇に向けて徐々に全世界に影響を与え始めます。4℃以上では穀物収穫量や漁獲量の落ち込みは顕著になり、人の移動や水を巡る紛争の頻発で国の安全保障問題に発展するリスクがあると警告しています。総じて2℃以内であれば適応策の実施で悪影響は4分の1程度に抑えられるが、4℃では適応が困難になることを示しています。

(4)2℃未満に抑える道は残されているが2050年に世界のGHGの排出を40～70％削減する必要があり、2100年には排出をゼロかマイナスにする必要がある。

このままのGHG排出が続くと、後30年で気温上昇2℃のために許容される限界排出枠を超えてしまうことも示されている。

報告では温暖化問題はエネルギー問題であり、温暖化を抑制するためにはエネルギーの根本的変革及びGHG抑制策と国際協力が不可欠であると結論しています。また、これまで取り組んできた京都議定書、排出権取引、環境税等の諸施策に対しても一定の評価を与えていて、新たな国際協力を促しているようにも読み取れます。

その国際協力の現状はどうなのか、COP19（第19回気候変動枠組条約締約国会議：ワルシャワ会議）の成果を含め、次回解説します。

大衆の中により深く

株式会社とんでん（ISO22000:2005認証登録）　食品安全チーム　**中垣 邦秀**

弊社は創業1968年に和菓子の製造販売から始まり「大衆の中により深く豊かで楽しい生活の提供」という経営理念を掲げ、1973年には和食事業を北海道札幌市で始め、その後1978年に関東地方首都圏でも事業展開を行い、今日まで食堂業として、お客様の満足を追求し安心と安全を売ることにこだわってきました。

きれいな空気とおいしい水に囲まれた北海道恵庭市にある恵庭工場では、レストラン店舗への一次加工品の食材供給基地として、より安全で品質の高い商品を提供するため2011年にISO22000の認証を取得し食品安全マネジメントシステムを構築しました。

恵庭工場では北海道の食材にもこだわり、近海で水揚げされた魚介類、北竜町や新得町で収穫されたそば粉を使用した「北海道そば」、十勝産小麦粉を使用した「十勝うどん」、富良野産豚肉を使用した「ロースかつ」、札幌近郊の新鮮な卵をベースにした茶碗蒸し、風味豊かなだしと天然水で仕込んだつゆやタレ、赤肉メロンを使用したゼリーなど北海道ブランドを前面にだした商品の加工も担っています。

そしてISO22000の認証取得により産地から原材料、製造加工工程、保管、出荷工程に至るまで一貫した管理方法が確立され、運用を行う従業員の衛生意識の向上に繋がっています。

昨今、食品を取り巻く環境に厳しい目を向けられる中で、レストラン店舗を利用されるお客様に対して安全でおいしく安心して召し上がっていただく商品作りに取り組んでまいります。

恵庭工場

▶http://www.tonden.co.jp/

環境にやさしい物流器材

株式会社新弘（ISO14001:2004認証登録）　代表取締役　**武藤 功**

当社は、愛知県津島市において、使い捨てではない環境にやさしい『リターナブル物流器材』を、製作している会社でございます。『リターナブル物流器材』は、主にプラスチック製の板材（プラダン・発泡PP材・発泡PE材）で製作する外箱と、プラスチック製板材とクッション材で製作する内装材で構成されています。『リターナブル物流器材』は、省資源・省エネと廃棄物の削減に大きく貢献する製品です。当社では、製品の製造工程で発生する端材を少しでも減らして、有効活用できるよう、プラスチック製の板材メーカーと協力し、発生した端材を再利用するシステムを構築しています。

2008年にISO14001を取得、2014年にインターテックへ審査機関変更をしました。審査では、「常に流通手段のメリットを追求する中、企業における生産性の向上、廃棄物発生抑制等の環境負荷低減、環境パフォーマンスの向上に多大なる貢献をされており、あらゆる業界・業種に対応できるよう、積極的に設計・開発を行うなど、今後の企業としての成長が期待できます。」との言葉がありました。今後もリターナブルという流通手段のメリットを追求し、製品の設計・製造・使用・廃棄の各段階における環境との係わりを評価し、循環調和型社会の実現に向けて努力していく所存です。

環境にやさしい『リターナブル物流器材』を提案させていただきます。ご気軽にお問い合わせくださいませ。

本社工場（津島）

▶http://www.shinko-sss.co.jp

ちょっといっぷく

日に日に過ごしやすくなり、芸術の秋、読書の秋、味覚の秋、そしてスポーツの秋がやってきました。10月の祝日「体育の日」は“スポーツに親しみ、健康な心身をつちかう”ことを趣旨とした、まさにスポーツを象徴する日です。

今から50年前の1964年にアジア初のオリンピックとして開催された東京オリンピックでの輝かしい成果と感動を記念し、2年後の1966年に、東京オリンピックの開会式が行われた10月10日に制定されたのが「体育の日」です。2000年以降は、ハッピーマンデー制度により10月の第2月曜日に移行しています。

ところで、夏季オリンピックとしては遅い開幕となった東京オリンピックですが、開会式が10月10日に行われたのは天候が関係しているそうです。東京の夏は気温と湿度が高く、10月上旬までは秋雨前線が停滞することをなどを考慮して日程が組まれたとのこと。10月10日は過去の統計から晴れが多い日として知られており、オリンピック開会式当日も前日の雨から一転して朝から絶好のお天気に恵まれたそうです。

最近では春に行うことも増えてきているようですが、以前は秋の代表的なスポーツイベントといえば運動会でした。運動会は、玉入れやパン食い競争など運動会以外ではあまり見ない様々な種目がありますが、そもそも運動会は、1874年（明治7年）、東京築地にある海軍兵学校でイギリス人英語教師によって催された「戦闘遊戯会」がその起源だと言われています。その後札幌農学校での「カ芸会」、東京大学の「運動会」が催され、1896年（明治29年）には運動会を奨励する文部省令が発布され、全国の小中学校で催されるようになりました。しかし、当時の小中学校には十分な運動場がなく、神社やお寺の境内などで実施されました。そのため、生徒だけではなく、檀家や氏子、地域住民も参加できるよう、パン食い競争や大玉転がしなど娯楽性の高い種目が取り入れられ、さらに夏祭りや秋祭りも同時に実施したことから盆踊りなども行われました。これがフォークダンスのルーツです。また、会場が家から離れている場合も多かったことから遠足の要素も混じり、お弁当を作る習慣になったようです。ちなみに、運動会の紅白の由来は、源平合戦が最も有力とされていて、源氏が白旗を、平氏が紅旗を掲げて戦ったことから、対抗戦で紅白が用いられるようになりました。

運動会をはじめ、スポーツ関連のイベントが多く催される季節です。爽やかな秋空の下、スポーツに親しみ、健康について考える機会にして頂ければと思います。（参照：文部科学省、総務省統計局、棒倒し普及委員会HP）

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地　東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001：IRCA認定 審査員研修コース　（5日間）
- ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース　（3日間）
- OHSAS18001：IRCA認定 移行型審査員研修コース（3日間）

開催地　東京

対象者
- 審査員の目で内部監査を行いたい
- 内部監査グループのリーダーに任命された
- 将来審査員を目指している

受講生からのお便り

ISO9001：2008 内部監査員研修コースを受講して

品質内部監査員コース（2014年5月大阪会場）受講

全国農業協同組合連合会 岡山県本部
畜産部　石田 祥子

弊会は主に岡山県内の農畜産物を取り扱っている農業団体です。その中で畜産部として、ISO9001：2008を取得しております。私は、今までISOへは、受動的な関わりしかありませんでしたが、これからの内部監査員の育成として、今回の講習を受けることとなりました。

そのため、受講に対して不安もありましたが、講師の方の説明も分かりやすく、また実践的な内容が多かったため、とても身になる講習となりました。特に、内部監査の流れや不適合の分類については、よく勉強させていただき、理解を深めることが出来ました。

今回の講習で満足することなく、今後、日々の業務の中でも内部監査員としての自覚を持ち、より一層、理解を深めていこうと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm
東京事務所　〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003　大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com